

美深町地域公共交通活性化協議会における地域公共交通確保維持改善事業の概要

概要

美深町では、過疎化に伴う鉄路の廃止などによって、鉄道廃止代替バス等で市街地と集落間の公共交通機関を確保してきた。

しかし、こうした路線は著しい人口減少とマイカーの普及によって利用者数が減少して財政負担が増加、効率的で利便性の高い交通形態の確立が課題となっていた。加えて、高齢化による市街地内での短距離移送の需要も高まっていたことから、仁宇布線バスにおいてはデマンド型への変更、市街地では新しい交通サービスの構築に向け、平成22年度からそれぞれ試験運行に着手した。

24年度からは、仁宇布線はデマンド型本運行をスタート、市街地では「フレンドバス(試行)」として住民に一定の浸透が見られている。

美深町生活交通ネットワーク計画の目標・効果

- ①仁宇布線デマンドバスの運行によって、支線のネットワーク網を構築するとともに、仁宇布地区集落の高齢者や通園、通学などの日常生活に不可欠な移動手段を確保し、それにより農村集落の維持を図る。また、同地域は美深町の主要観光資源が存在する地域であり、観光客の移動手段を確保することによって地域活性化につなげる。

目標:年間利用者数 4,100人以上

平成25年度事業概要

仁宇布線デマンドバス 運行

運行事業者:名士バス(株)

運送の区間:美深ターミナルー辺溪ー仁宇布待合所(27.km)

運行本数等:1日5便(7:00、8:20、11:10、14:10、15:50)

地域公共交通の現況

- ・JR宗谷線(美深駅、紋穂内駅、恩根内駅ほか)
- ・名士バス(株)(恩根内線)
- ・ " (仁宇布線デマンドバス)
- ・スクールバス(恩根内美中線、玉川線、楠・清水線、斑溪・吉野線)
- ・美深ハイヤー

美深町地域公共交通活性化協議会開催状況

- 1 平成24年6月19日 第1回協議会を開催
 - ①～まちのにぎわい創出～フレンドバスびふか運行事業について
 - ②美深町地域生活交通ネットワーク計画について
- 2 平成25年2月26日 第2回協議会を開催
 - ①平成 25年度フレンドバスの本格運行について
 - ②平成 24年度フレンドバス実証運行状況について

平成25年度事業の実施状況

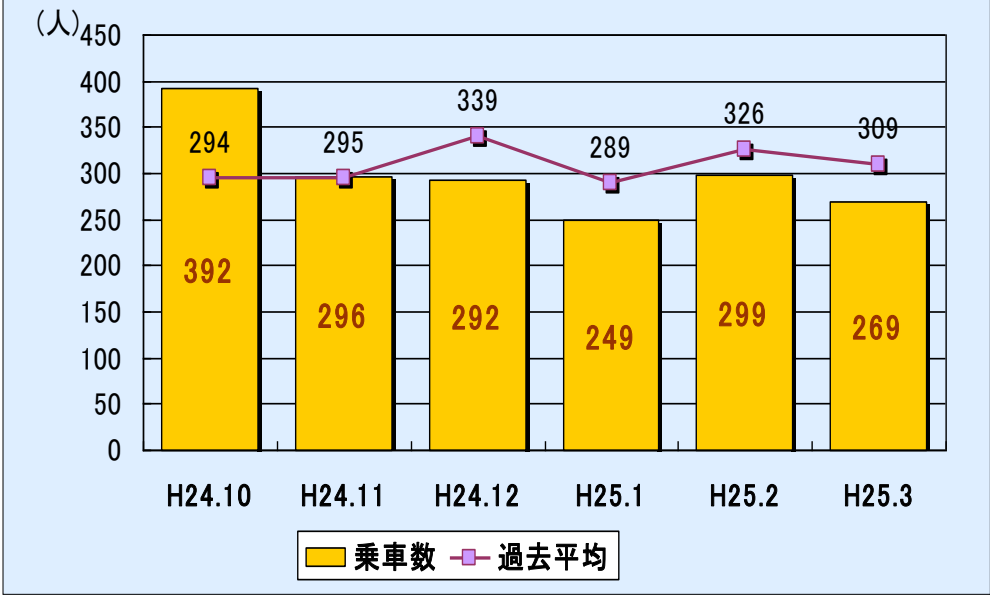
1) プロセス、創意工夫

- ・平成21年度に公共交通活性化・再生総合事業による調査事業を実施、美深町地域公共交通総合連携計画を策定し、仁宇布線バスの見直しに着手。
- ・公共交通活性化・再生総合事業を活用し、平成22年度に42日間、23年度に159日間のデマンド型実証運行を行った。
- ・デマンドバス用15人乗り通勤バス車両購入。(H23.10)
- ・H24.4.1からデマンド型で本格運行に移行。

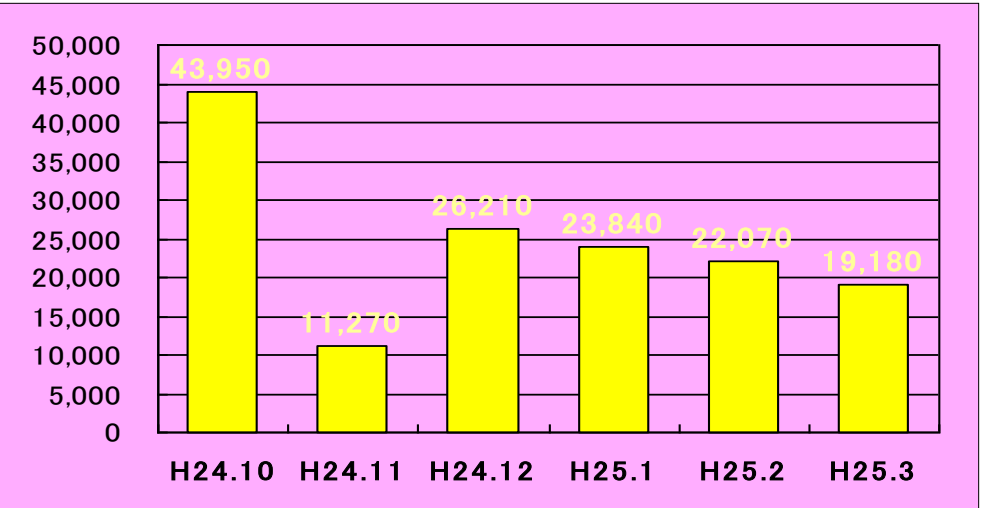
2) 運行ルート



3) 利用実績



4) 収入実績



5) 事業実施の適切性

事業が計画に位置づけられたとおり、適切に実施されている。

6) 目標・効果達成状況

- ・25年度計画では、年間乗車数を4,100人に設定している。
- ・今冬は悪天候続きで外出が控えられたことや、利用回数の多かった地域のお年寄り数人が亡くなったことにより、H24.4月～H25.3月の年間集計については3,999人であったが、概ね順調に利用されていることから、H24.10月～H25.9月の目標は達成できる見こみ。

7) 事業の今後の改善点

効率的で利便性の高い運行によって幹線(恩根内線)とのネットワークを維持し、仁宇布地区の住民に必要な足としての定着を図る。

さらに、当該地域は美深町の主要観光資源が存在する地域であり、観光客の移動手段確保によって地域活性化にもつなげたい。

8) 地方運輸局及び地方航空局における二次評価結果

- ・自己評価のとおり、適切に事業が実施されている。
- ・また、事業実施に当たって地域に定着した取り組みが行われた点は評価する。
- ・住民に新たな利用者の増加が見込めない中で、観光客は有力な利用者となり得ることから、住民の満足度を向上させる取組とあわせて各種媒体を使ったPR等認知度向上に向けた取組の実施についても期待する。